

軽防協ニュース速報 号外

2003年10月2日
軽種馬防疫協議会 事務局
(JRA 馬事部防疫課)

鳥取県での馬日本脳炎の発生について

8月15日に発症し、8月18日にへい死に至った馬について、9月12日に馬日本脳炎の確定診断が下されましたので、その概要をお知らせいたします。わが国での馬日本脳炎の発生は昭和60年以来、18年ぶりとなります。なお、今回の発生馬の確定診断は、ウエストナイルウイルス感染症防疫マニュアルの「IV. 異常馬発見時の措置等」に基づき送付された当該へい死馬の剖検材料の病原学的検査により行われました。発生状況等の詳細につきましては以下のとおりです。

日本脳炎ウイルスの媒介動物である蚊の活動時期のピークは過ぎましたが、再度ワクチン接種の周知・徹底をお願いいたします。

1. 発生場所 鳥取県倉吉市（所轄家畜保健衛生所：倉吉家畜保健衛生所）
2. 発生馬 品 種：道産子 年 齢：4歳（平成11年6月20日生）
性 別：セン 用 途：乗用
同居馬：4頭（道産子2頭、ポニー2頭）
ワクチン接種歴：なし（同居馬のうちポニー2頭のみ昨年度接種歴あり）
3. 臨床症状 8月15日：食欲減少以外は異常症状認めず。
8月16日：夕方に起立時のふらつきを認める。
8月17日：朝より起立困難となり、獣医師に診察を依頼する（体温：38.8℃、心拍数：72回/分）。
8月18日：へい死（午前5時）。倉吉家畜保健衛生所に通報する。
4. 病理所見 腎盂腎炎および膀胱炎の確認。右心房から右心室にかけて、直径約3cm、長さ約6cmの少量の血餅が付着した黄色脂肪様組織塊の存在を確認。
5. 検査材料 採材日：平成15年8月18日および9月9日（組血清2回目）
材 料：脳（小脳・大脳）、脊髄液、および同居馬4頭の組血清
6. 確定診断 2代継代された当該馬の大脳乳剤接種培養細胞に細胞変性効果（CPE）が認められ、その培養上清中にRT-PCR法により日本脳炎ウイルス遺伝子が検出されました。さらに培養上清を接種した乳のみマウスに元気消失等の症状が認められ、その脳材料からもRT-PCR法により日本脳炎ウイルス遺伝子が検出されました。なお、当該馬および同居馬4頭全てについて、ウエストナイルウイルス感染は否定されています。